

令和元年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立青谷高等学校

校長 小 川 勝

評 価 日	令和 2 年 2 月 1 8 日 (火)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 各評価項目毎に達成状況、評価について説明し、了解していただいた。 ①学力の向上について ・ I C Tを活用した授業改革への教員の取組、生徒の学習意欲の向上は評価できる。 ・ スマホやタブレット、パソコン等を持っていない生徒の割合はどれくらいか。持っていない生徒への対応はどのように考えているのか。 ・ 小学校で使用する教科書にはQ R コードが付いているものも出てきており、I C Tの使用環境は拡大している。I C Tの活用についての今後の見通しはどのように考えているのか。 ・ 授業を参観して、今までに見たことがないような生徒の授業態度や表情が見られた。授業に取り組む姿勢がよくなっていて、頑張っている。 ・ 「学び直し」についてイメージが持てていなかったが、授業を参観してよくわかった。教員の本気を感じた。「わかる」という経験は自己有用感にもつながる。頑張っていて欲しい。 ②進路の実現 特になし ③社会人基礎力の育成 ・ ボランティア活動は日常とは違う体験ができる学びの場であり、コミュニケーション力等を身に付けることもできる場である。地域の方々と交流し、声をかけられたりする体験は、生徒の自己有用感の高揚につながり、生徒の気力を生んでいると思う。 ④地域連携の推進 特になし ⑤業務改善の推進 特になし		→次年度以降も継続して取り組む。 →家庭等ではI C Tを使用できる環境に恵まれない生徒もいる。 学校ではすべての生徒が平等に十分に使用できるように環境を整えていきたい。タブレットなら「一人一台」で使えるように県に要望していく。 →生徒の「わかる」経験が増えるように次年度も取り組んでいきたい。 →次年度も引き続きボランティアを推進し、生徒の成長につなげていきたい。

(2) 説明・公表について

3月末までに学校HPに掲載し、公表する。

2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

学校裁量予算による独自事業の取組とその成果について、ご理解いただくとともに高く評価していただいた。

3. 取組改善のための提言

- ・地域からボランティアの依頼が増えたというのはよいこと。さらに地域と Win・Win の関係を築いていけるとよい。
- ・生徒の評価（学校評価アンケートの結果）を評価の指標としている項目が多いが、教職員の取組（頑張り）をもっと評価の指標として使ってもよいのではないか。
- ・「学び直し」や「特別支援教育」で中学校と連携した取組をさらに推進してはどうか。
- ・「高校生だっぴ」に参加して、生徒たちがしっかりした考えを持っていると感じた。もっとそれを表現していけたらよいと思う。

→次年度も地域活動ボランティアを推進し、今以上に地域から信頼され、愛され学校になるよう頑張りたい。

→より適切な評価となるよう、指標の検討を行っていきたい。

→基礎数学・基礎英語の「学び直し」の方法・内容等の改善に、中学校の先生と連携して、取り組みたい。

→授業の時間は勿論、様々な行事の場面で、生徒が自己を表現する機会を増やし、自己表現力を高めていきたい。